

株式会社ジェイコム中野

放送番組審議会 議事録

平成 28 年度（2016 年度）株式会社ジェイコム中野 番組審議会は、2017 年 3 月 28 日(火) 中野局にて開催された。

【放送番組審議会委員】

ご出席

折原 烈男 様
田辺 裕子 様
涌井 友子 様
長谷部 智明 様
小野 光 様
宮島 茂明 様

ご欠席

酒井 直人 様

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】 進行：折原会長

■ 中野区との取組について

委員

東京都の 85%は J:COM エリアとの話だが、今後残りの 15%も傘下に収め、都内全域で J:COM のコミュニティチャンネルを見られるようにする予定はあるか？

事業者

J:COM のエリア外はグループ外のケーブルテレビ事業者が展開している。
送信手法の微妙な違いなどもあるため、今のところ更なる拡大は耳に入っていない。

委員

最近は番組の質が向上しているし、工夫されていると感じる。
「中野町会めぐり あなたの町会どんなトコ？」は研究所スタイルで面白いが、もっと設定を活かした演出を

行ってみては。化学反応式をベースに、「祭 + 人 = ○」など見せ方はいろいろできると思う。

スポーツ番組では中野の学校やチームを追いかけているが、中野出身でありながら他の地域で活躍している選手を取り上げてみてはどうか？例えば高校野球では、東京では出場の確立が低いので他県に進学した子もいる。今後活躍するであろう「中野発」のルーキーを是非 特集して欲しい。

委員

「中野町会めぐり あなたの町会どんなトコ？」の研究所という演出は非常に面白い。

支え合いや意見交換もあり、町会の立場から見ても将来性を感じる。

「デイリーニュース」ではイベント取材を丁寧にやっている印象。

人を集める・街自体を変えていくイベントが増えていく中、町会のアシストと一緒に作っていきたい。

地域アナウンサーをイベントの司会にするなど、J:COM と多面的に組んでいければ良い。

委員

地域のイベント含めて話題が多く、よく取材している。イベントの実施直前に J:COM への情報出しを行っていないと気付くことも多々あり、昨年から定期的に情報交換の場を設けた。やはり直前の依頼だと取材も難しいため、地域連携の仕組みづくりが重要だと思う。

地域アナウンサーが地元によく溶け込んでおり、人とのつながりも豊富なので面白い番組ができています。

中野区には有名な名所・旧跡など観光名所が少ないので、地域を盛り上げるためにイベントを立ち上げてきた経緯がある。今や全国からイベントが集まってくるため、情報を拾うのは大変だと思うが、区民に伝えて頂きたい。

■映像のアーカイブ化に関して

委員

広報番組を区役所で見られるようにしていたが、中野サンプラザの観光案内所で DVD を終日流すなど、より多くの目に触れるような工夫が必要。上手く広報できれば広がっていくはず。

オンタイムでの視聴はなかなか難しいので、アーカイブ化など見逃した放送をリピートする仕組みが望ましい。番組によっては YouTube で配信しているので、今後期待する。

事業者

「デイリーニュース」や特番のアーカイブ化に関してはスマホ用アプリなどで対応を考えている。

加入者でなくても、アプリをダウンロードすればご覧になれるようにしたい。

ただし、肖像権の問題があるため、最長でも過去 1 週間程度の配信期間となるだろう。

テレビを持っていない若者も増えているので対応していく。

■働く世代の地域参加と地域メディアの役割

委員

「第8回中学生 東京駅伝大会」は親御さんにとって嬉しい企画だし、Twitterも良い試みだったと思う。高齢者や子供は在宅しているので、番組に触れたり、地域活動に参加したりしている。今後は働く世代の方々を地域活動に誘導していくのが課題。単にイベントを紹介するだけでなく、地域とつながりを持てるような番組を作って欲しい。

委員

30～40代といった働き盛りの世代は、地域行事への参加率も低くなっている。週末に子供連れで楽しめるイベントには出かけているので、番組が地域に溶け込むためのヒントになると良いのでは。区役所の広報番組は柔らかくなり、大変見やすくなったと思う。区役所や商工会議所、警察などのことを知っているようで知らないので、積極的に取り上げて欲しい。

事業者

働く世代と地域をつなぐのは学校だと思う。地域参加を促すものとして、父親を中心としたPTA活動「おやじの会」がある。働き盛りの父親たちが子供を通じて仲良くなり、地域の夏祭りなどで主体となっている。「おやじの会」の楽しさを伝えるような番組を考えてみたい。

委員

最近はどこも神輿の担ぎ手を他所から募集しているが、去年は「おやじの会」の方が参加してくれて、地元の人間だけで担ぐことができた。地域活動に関心を持つ働く世代の方も増えてきている。

委員

「おやじの会」には異業種交流の側面もある。地域と積極的につながりたい父親は意識が高い方も多い。中野に住むことになり、地域とのつながりを求めて入る方もいれば、歴代メンバーの勧誘で入会する方もいる。番組があれば各小学校の会同士が競い合い、より盛り上がっていきだろう。

■編成に関して

委員

Twitterに投稿された情報や画像をリアルタイムで番組に流す仕組みを作ったかどうか？スマホを利用している層には不要でも、在宅している高齢者などテレビで情報を得る方には意義がある。近隣の住民にとっては通行止めなどの情報は重要だし、民放が扱うニュース規模ではないので地域メディアが拾うべき事案。J:COMの速報性も上がっていきだろう。

事業者

現在も災害情報や公共機関の遅延情報などをデータ放送で発信している。

Twitter を利用した速報に関しては技術的な問題に加えて、投稿内容の精査や許諾取りなどハードルが高い。「第8回中学生 東京駅伝大会」では約800件のツイートを紹介したが、全て人の手でチェックを行った。

■地域メディアのありかた

事業者

被災者への配慮も地域メディアにとっての課題。民放よりも近い距離で接しているからこそ、ニュース性よりも個人のプライバシーが優先されるべきだと考えている。福岡の陥没事故では被災者の顔ではなく、公共機関の運行ルート変更といった情報出しにこだわった。事件や事故のインパクトに注目しがちだが、地元目線で「暮らしにどう関わってくるのか」を取り上げていきたい。

以上